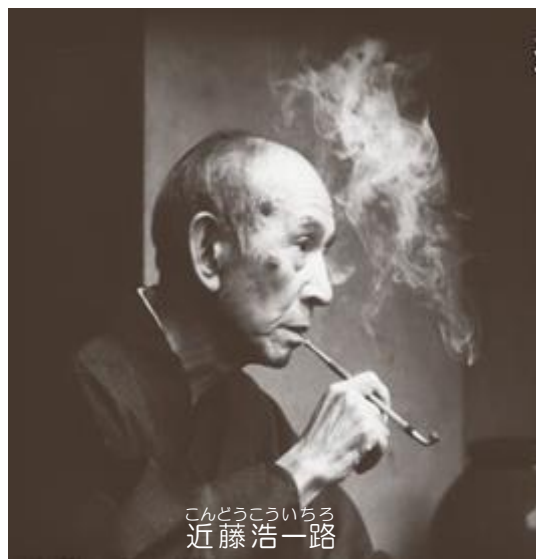


—2025 夏休み自由研究プロジェクト—

近藤浩一路記念南部町立美術館



近藤浩一路



【近藤浩一路の水墨画の特徴】

浩一路の作品はいつも光と影が重要な役割を果たしています。洋画（油絵）で学んだことを水墨画の中に取り入れ、自分だけの特色ある水墨画の世界をつくりあげました。

浩一路の水墨画って写真みたいに見えませんか？

光（太陽の光） 影（馬や木の影）※下の絵のどの部分かわかるかな？

太陽の光（朝日）

動物・木の影

N A N B U
YAMANASHI



TAKENOKOMAN
Illustration by Tatsuya Miyanishi

山梨県に水墨画の美術館って南部町にしかないんだよ。水墨画の歴史は、日本では鎌倉時代に伝わり室町時代にはいろいろな風景や植物、生き物が描かれるようになったんだ。歴史を調べていくと楽しいよ！

おっと、ちなみにワタクシ、南部町公式キャラクターのタケノコマン。美術館でみんなと会えるのを待っているでやんす！

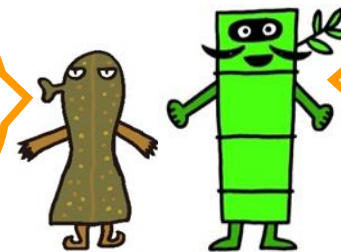
【近藤浩一路ってどんな人？】

明治17年、南部町に生まれました。その後、静岡県に移り住み、蕨山中学校（現・蕨山高校）を卒業すると東京の美術学校（現・東京芸術大学）に入学し、洋画（油絵）の勉強をしました。大学を卒業すると新聞記者として漫画も描き、漫画家として有名になった時代もありましたが、日本画（水墨画）への志が強くなり、代表作となった『鵜飼六題』（1923）の発表後は水墨画家として精力的に作品を発表していきました。いつの時代も描くことへの信念が強く、時代ごとに変化していく近藤浩一路の水墨画は多くの人々に愛され、今も大切に伝え続けられています。

作品のタイトル

『放牧』（左）・『秋色』（右）草原に放された数頭の馬、朝日の中で草を食べる牧場の風景や、野山に現れた小鹿の光と影が見事に水墨で表現されています。

ヒルヒル～
墨だけでこんなに
描けるなんて
すご～い！



このほか、いろいろな
作家による作品展も
あるぞ！ぜひ美術館で
ほんものの絵を
見るのじゃ！



すいぼくが ちょうせん
水墨画に挑戦
してみよう！

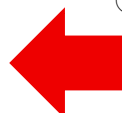


(用具と材料)

お習字のセットがあれば大丈夫。

←こんな感じにね！

- ① すずり ② すみ ③ ふで
④ ぶんちん ⑤ 下敷き ⑥ 和紙
⑦ 水さし (ふで洗い) ⑧ 小皿 ⑨ 布



では、スタート！誰でも簡単に水墨画を楽しめます。

① まず筆の先から半分くらいに濃い墨をつけます。

② 残った筆の部分に絵皿で薄めた墨を軽くつけます。そうすることで筆に濃淡（グラデーション）が出ます。

③ 筆を横にたおして、上へ幹を描きます。この時、しっかり紙をおさえないと筆がまっすぐ進まず、曲がってしまうので注意。なるべくさっと描きましょう。ゆっくり動かすと墨がにじみすぎてしまいます。

④ 竹の節の所で1回止めます。この時ピタッと筆を止めるようにすると良いです。（2番目の幹も同じように描きます。）

⑤ かすれが出るとなお良いです。水分を多く含ませ過ぎなければ自然に出ると思います。勢いよく筆を動かすのがコツです。幹を描き終わったら、節の部分に線を入れます。

⑥ 次に、竹の葉です。筆先を整えて、筆を少し立てます。そして素早く抜き上げる。同じ葉でも、色の濃い葉と薄い葉を入れると奥行きが出て竹らしくなります。葉っぱを描く時は、枝の位置を想定して描くと良いですね。

大丈夫！遊びながら楽しんでみてください。意外とカッコよく描けちゃうよ！（インターネットで調べると色々動画で学ぶこともできます。）